

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-177776

(43)Date of publication of application : 30.06.1998

(51)Int.Cl.

G11B 23/38

G11B 23/30

(21)Application number : 08-335759

(71)Applicant : SONY CORP

(22)Date of filing : 16.12.1996

(72)Inventor : TANIMURA KAZUNARI

HOSHINO HIROMI

SASAYA TAKUJI

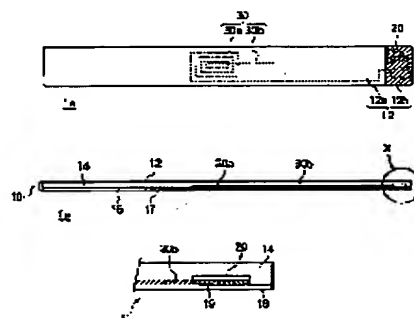
TANAKA MASATERU

(54) CASSETTE LABEL AND VIDEO CASSETTE TAPE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a device capable of managing additive information of a video data in noncontact communication by equipping a label substrate having a logotype area in advance where no characters/patters, etc., can substantially be described including an area housing an integrated circuit and also having a character entry area capable of describing arbitrary characters/patters and then capable of fitting to back surface of the video cassette tape.

SOLUTION: A base sheet 16 is a polyimide substrate, where an antenna 30a is provided in the middle part and an IC 20 is packaged in the end part, and then a connecting line 30b is formed between them. The IC 20 is bonded to the base sheet 16 by using a cushion adhesive 19. An entry surface 12 is the surface for visually describing information, and is formed by sticking a coat paper to a surface of a protective sheet 14 on the opposite side to the base sheet 16. Prescribed characters and patterns are entered in a logotype entry position 12b corresponding to a position where the IC 20 is buried in the entry surface 12, and no characters, etc., can be entered in this part by the user at all.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-177776

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月30日

(51) Int.Cl.⁶

G 1 1 B 23/38
23/30

識別記号

F I

G 1 1 B 23/38
23/30

A
Z

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平8-335759

(22) 出願日 平成8年(1996)12月16日

(71) 出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72) 発明者 谷村 一成

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ
ー株式会社内

(72) 発明者 星野 弘美

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ
ー株式会社内

(72) 発明者 笹谷 卓史

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ
ー株式会社内

(74) 代理人 弁理士 佐藤 隆久

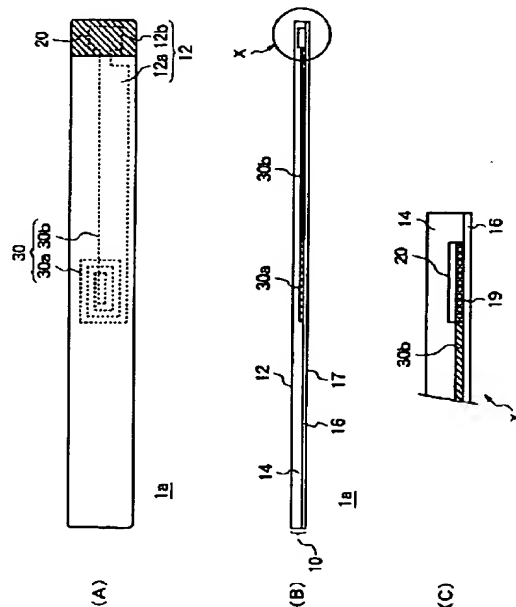
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 カセットラベル、および、ビデオカセットテープ

(57) 【要約】

【課題】 ICを収容したビデオラベルにおいて、文字記入時のペンの筆圧などによりICが破損する可能性がある。

【解決手段】 カセットラベル1aのIC20が収容されている位置の表面をロゴ記入位置12bとして、フォーマットロゴやメーカーロゴなどを記載し、実質的にこの部分に文字が書けないようにする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段と、

前記集積回路と前記アンテナ手段を収容し、該集積回路が収容されている領域を包含し実質的に文字・図形等が記載することができないように予め所定の文字・図形等が記載されたロゴ記載領域と、任意の文字・図形等を記載することができる文字記載領域とを有する表面部を有し、ビデオカセットテープの背面に装着されるラベル基

10 体とを有するカセットラベル。
【請求項2】前記ラベル基体は、前記アンテナ手段を当該カセットラベルの長手方向に垂直な方向のほぼ中心付近に配置されるように収容する請求項1記載のカセットラベル。

【請求項3】前記ラベル基体は、前記集積回路を、当該カセットラベルの長手方向の端部に配置されるように収容する請求項1記載のカセットラベル。

【請求項4】前記ロゴ記載領域には、当該カセットラベルが装着されるビデオカセットテープのフォーマット、および、当該カセットラベルが装着されるビデオカセットテープのメーカーの、いずれか、またはその両方を示す視覚的に認識可能な所定の情報が記載される請求項1記載のカセットラベル。

【請求項5】ビデオ信号を記録するビデオテープと、前記ビデオテープを収容するカセットケースと、前記カセットケースの背面に装着され、記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段とを有するカセット

ラベルとを有し、前記カセットラベルは、記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段と、

前記集積回路と前記アンテナ手段を収容し、該集積回路が収容されている領域を包含し実質的に文字・図形等が記載することができないように予め所定の文字・図形等が記載されたロゴ記載領域と、任意の文字・図形等を記載することができる文字記載領域とを有する表面部を有するラベル基体とを有するビデオカセットテープ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ビデオテープカセットに装着して用い、記録したビデオデータに関する情報などを記録することのできるカセットラベルと、そのカセットラベルが装着されたビデオテープカセットに関する。

【0002】

【従来の技術】テレビカメラなどの撮像装置により撮影され、ビデオテープに記録されるビデオデータについて

は、その内容等の情報を容易に確認できるような状態で記録したい、また保存したいという要望がある。特に、テレビジョン放送局において取材業務で使用する場合などにおいては、ビデオカムコーダなどにより撮影した多数のカット（連続して撮影された映像、あるいは、そのビデオデータ）の中から必要なカットを高速に選択して編集する必要がある。

【0003】これまで通常は、そのような記録したビデオデータの情報は、撮影時に別途紙面などにメモをしておき、再生時や編集時には、そのメモを見ながら所望のビデオデータを高速に選択するような方法が用いられている。また、カセットライブラリなどの大量のビデオカセットを自動的に取り扱うシステムにおいては、バーコードが印刷されたカセットラベルを用いて、ビデオカセットテープの管理を行っている。

【0004】また近年、1/4インチデジタルビデオカセットテープなどにおいては、ビデオテープを収容するカセットにフラッシュメモリなどの半導体メモリ素子を組み込み、記録時間・記録内容・タイトルなどの情報をの記録できるようにしているものもある。そのようなビデオカセットテープに組み込まれた半導体メモリ素子に対するデータの記録および再生は、たとえばカセットケースの背面部の誤消去防止用ツメの近傍に設けられ、たとえば接地、電源、クロック、データの4本からなる電極を介して接触方式により行うものである。

【0005】しかしながら、そのようなこれまでの方法においては、種々の使用形態の制限や不便な点がある。たとえば、紙面にメモをとる方法では、その紙を紛失する場合が生じたり、そのメモに基づいた処理を自動化できない。バーコードをラベルに印刷する方法においては、記録できる情報量に限りがあり十分ではない。また、半導体メモリを用いる方法においては、電極を適切に接触させなければならず、その位置決めを精度よく行わなければいけないという問題や、埃の付着などにより接触不良になるという問題があった。また、既にビデオデータが記録されている、たとえばテレビジョン放送局などの数十万本というような膨大な量のビデオテープカセットに対して、その記録されているビデオデータの情報を電子化して保持するためには、それらの方法は適切ではないという問題もある。

【0006】そこで、本願発明者らは、既に特願平8-300449号により出願されているような、半導体メモリなどの集積回路を収容し、非接触方式により外部とデータの転送が可能なカセットラベルを提案している。このカセットラベルにより記録したビデオデータの付加的情報を管理するようにすれば、前述したような種々の問題は解決される。さらに、既にビデオデータの記録されているビデオカセットテープに対しても容易に適用することができる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】ところで、ビデオカセットテープに装着するようなそのようなカセットラベルは一般的に非常に薄く、前述した本願発明者らが提案しているカセットラベルもラベル自身が0.6[mm]程度、その中に収容される非接触メモリIC自体が0.2～0.3[mm]程度の厚さのものである。そのため、ラベル基体中に保護シートや補強材などを用いることにより、通常のラベルの貼着あるいは剥離動作などによる曲げ力では収容するICが破損されない程度の強度を得るようにしている。しかしながら、その厚みが限られていることからその強度には自ずから制限が生じており、特殊な状況においては、ICが破損する可能性が高くなるという問題がある。

【0008】特に、たとえばラベルの表面に撮影場所や撮影者の名前、撮影日などの情報をペンなどの筆記用具で記入する場合などに、丁度ICが収容されている位置に対してペンを当てる強い衝撃が加わったり、記入時の筆圧が加わったりすると、ICにクラックが入ったり、場合によっては破壊される可能性も生じていた。仮にこのようなICの破壊が生じると、カセットラベルが使用不能になる上にそのICに記録されている情報を読み出すことも不可能になり大きな問題となる。通常であれば、金属板などにより強固にICを保護することも考えられるが、非接触でデータを送受するカセットラベルにおいては、厚みの点から、また通信用の磁界が影響を受ける点などからそのような対策をとることができない。

【0009】したがって、本発明の目的は、ICを収容して非接触で通信を行いビデオデータの付加的な情報を管理することができ、特に文字などを記録することによりICが破損するのを防ぐことができるようなカセットラベルを提供することにある。また、本発明の他の目的は、背に装着されたIC収容のカセットラベルにより記録したビデオデータの付加的な情報を適切に管理することができ、特に背ラベルに文字などを記録する際にそのICが破損するのを防ぐことができるようなビデオカセットテープを提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するために、カセットラベルのICの収容位置に、ロゴなどを印刷して実質的に文字などを記入できなくし、その位置にペンなどが当たったり、筆圧が加わったりすることのないようにした。

【0011】したがって、本発明のカセットラベルは、記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段と、前記集積回路と前記アンテナ手段を収容し、該集積回路が収容されている領域を包含し実質的に文字・図形等が記載することができないように予め所定の文字・図形等が記載されたロゴ記載領域と、任意の文字・図形等を記載することができる文字記載領域とを有する表面部を有

し、ビデオカセットテープの背面に装着されるラベル基体とを有する。

【0012】好適には前記ラベル基体は、前記アンテナ手段を当該カセットラベルの長手方向に垂直な方向のほぼ中心付近に配置されるように収容し、また、前記集積回路を、当該カセットラベルの長手方向の端部に配置されるように収容する。特定的には、前記ロゴ記載領域には、当該カセットラベルが装着されるビデオカセットテープのフォーマット、および、当該カセットラベルが装着されるビデオカセットテープのメーカーの、いずれか、またはその両方を示す視覚的に認識可能な所定の情報が記載される。

【0013】また、本発明のビデオカセットテープは、ビデオ信号を記録するビデオテープと、前記ビデオテープを収容するカセットケースと、前記カセットケースの背面に装着され、記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段とを有するカセットラベルとを有し、前記カセットラベルは、記憶部と信号処理部を有する集積回路と、前記集積回路に対して少なくとも信号の転送を行うアンテナ手段と、前記集積回路と前記アンテナ手段を収容し、該集積回路が収容されている領域を包含し実質的に文字・図形等が記載することができないように予め所定の文字・図形等が記載されたロゴ記載領域と、任意の文字・図形等を記載することができる文字記載領域とを有する表面部を有するラベル基体とを有する。

【0014】

【発明の実施の形態】本発明の一実施の形態について図1～図3を参照して説明する。本実施の形態においては、ビデオカセットテープの背面に貼着され、たとえば記録されているビデオデータのタイトルなどを記載することができる縦長で紙状のラベルであるカセットラベルについて説明する。図1は、その本実施の形態のカセットラベル1aの構成を示す図であり、(A)は上面図、(B)は側面図、(C)は(B)に示したXの部分の拡大図である。

【0015】まず、そのカセットラベルの構成について説明する。カセットラベル1aは、ラベル基体10の中に、IC20と、アンテナパタン30が埋設されて形成されている。まずラベル基体10の構成について説明する。ラベル基体10は、IC20およびアンテナパタン30が設けられるベースシート16、その上に設けられた保護シート14、保護シート14のベースシート16とは反対側の面に設けられた記入面12、および、ベースシート16の保護シート14とは逆の面に設けられた接着面17などを有する。

【0016】ベースシート16は、本実施の形態においてはポリイミド基板であり、その中央部にアンテナ30aが設けられ、その端部にIC20が実装され、それらの間に接続線30bが形成されている。またIC20は

10

20

30

40

50

図1(C)に示すようにクッション接着材19を用いてベースシート16に接着されている。保護シート14は、カセットラベル1aに曲げなどの力が加わっても、カセットラベル1aの各部材またはIC20やアンテナボタン30が割れたり切断されることの無いように一定の強度を確保するための部材である。この保護シート14のIC20と重なる位置はその厚みが薄くなっており、IC20の厚みを吸収するようになっている。

【0017】記入面12は、たとえばビデオテープに記録したビデオデータのタイトル、記録日時、記録場所などの情報を、印刷装置や筆記用具などにより可視的に記載するための面であり、本実施の形態においては、コート紙が保護シート14のベースシート16とは反対側の面に貼着されて形成されている。ただし、この記入面12の、IC20が埋設されている位置に対応する位置2bには、所定の文字や図形が記入されており、この部分には使用者が文字などを記入できないようになっている。記入面12のこのロゴ記入位置12bを除くその他の領域が、使用者が自由に文字などを記入することのできる情報記入領域12aである。なお、ロゴ記入位置12bには、通常、そのカセットラベル1aが貼着されるビデオカセットテープのフォーマットを示すフォーマットロゴ、そのビデオカセットテープのメーカーを示すメーカーロゴなどが記載される。

【0018】接着面17は、カセットラベル1aをビデオカセットテープに貼着するための両面接着材で構成される部材であり、その一方の面がベースシート16に貼着され、他方の面に図示せぬ剥離紙が張り合わされている。したがって、このカセットラベル1aを使用する時には、使用者はこの剥離紙を剥がしてカセットラベル1aをビデオカセットテープに貼着する。

【0019】次に、IC20およびアンテナボタン30について説明する。IC20は、記憶保持可能なメモリ部と信号処理部を有する集積回路であり、前述したようにクッション接着材19を介してベースシート16に実装される。本実施の形態のカセットラベル1aにおいては、IC20は2Kバイトの記憶容量のメモリを有する。また、IC20に具わる信号処理部は、13MHzのクロックで動作するプロセッサ部であり、メモリに対するデータのリード/ライト、後述するアンテナ30aを介して外部リード/ライトモジュールとのデータの転送などの処理を行う。

【0020】アンテナボタン30は、実際に外部リード/ライトモジュールとのデータの転送などを行うコイル状に形成されたアンテナ30aと、アンテナ30aとIC20とを接続する接続部30bとが、ベースシート16上に一体的に形成されたボタンである。このアンテナ30aにより、カセットラベル1aと外部リード/ライトモジュールとの間では、接点を持たずに電力の供給および信号の転送を行う。

【0021】なお、図1に示したカセットラベル1aにおいては、その長手方向の長さは約140[mm]、幅は18[mm]、ラベル本体の厚さは接着面を含んで約0.6[mm]である。

【0022】次にカセットラベル1aの使用形態、および、適用形態について説明する。このようなカセットラベル1aをビデオカセットテープ2に貼着した状態を図2に示す。図2に示すように、カセットラベル1aは、剥離紙が剥がされて接着面17によりビデオカセットテープ2の背面のラベル形状に合わせて形成された凹部54に貼着される。この時に、カセットラベル1aの向きは任意でよい。カセットラベル1aのアンテナ30aはカセットラベル1aの中央付近に設けられているので、カセットラベル1aをどの様な向きに貼着してもビデオカセットテープ2の凹部54の中央付近にアンテナ30aが来ることになり、外部のリード/ライトモジュールはその位置の近傍に外部アンテナを配置して通信を行えばよい。

【0023】そして、カセットラベル1aの表面には任意の筆記用具により文字や絵などの任意の図形を記載することができる。しかしこの時、カセットラベル1aの内部にIC20が埋設されている位置はロゴ記入位置12bとなっているのでなんらかのロゴ、マークなどが記載されており、この位置に使用者がペンなどにより文字を記入することはなく情報記入領域記入面12aに文字は書かれる。したがって、カセットラベル1aのIC20が埋設されている位置に対して、ペン先などにより圧力が加えられることはなく、IC20が破損する可能性が著しく低くなる。なお、カセットラベル1aの表面に記載される文字や図形は、ビデオカセットテープにカセットラベル1aが貼着される前に記載したり、予め印刷されていてよい。

【0024】図2に示すカセットラベルの装着されたビデオカセットテープ3の使用形態を図3に示す。図3は、このカセットラベルの装着されたビデオカセットテープ3を、ビデオテープレコーダ(VTR)装置に装着し、カセットラベル1a内のIC20に対してデータの転送が行われる状態を示す図である。図3に示すように、カセットラベルの装着されたビデオカセットテープ3がVTR装置に装着されると、表面部の蓋55が開けられて、ビデオカセットテープ3内に収容されていた図示せぬビデオテープが引き出され、ビデオデータ記録再生装置のヘッドに当接される。

【0025】一方で、ビデオカセットテープ3の背面部にはその中央付近にVTR装置本体に設けられたラベルリード/ライトモジュール91から出されたアンテナ90が配置される。そして、リード/ライトモジュール91はこのアンテナ90を介して、カセットラベル1aのIC20に対する電力の供給、および、制御を行う。すなわち、IC20内の信号処理部がメモリよりデータを

読み出し、アンテナ30aおよびアンテナ90を介してリード/ライトモジュール91へ転送を行ったり、あるいは、リード/ライトモジュール91からIC20に対してデータを転送して、IC20内の信号処理部がそのデータをメモリに記録する動作を行う。なお、リード/ライトモジュール91はさらにVTR装置側の信号処理部(CPU)に接続され、VTR装置本体側からコントロールされるようになっている。

【0026】なお、このような動作によりIC20には、ビデオテープに記録する各ビデオデータの、カットごとの記録位置、記録時刻、記録場所、記録時間などのデータや、その記録内容を示すタイトルなどの情報、そのカットから得られたインデックスピクチャ、または、撮影者が撮影時に入力したたとえばグッドショットマークなどの情報、などが記録される。また、ビデオテープに記録されたビデオデータ全体の記録時刻、記録時間、記録場所、記録条件、記録内容を示す情報、撮影者、編集者、編集回数、テープの使用回数、および、ショットのテイクナンバーなどの情報も記録される。

【0027】このように、本実施の形態のカセットラベル1aにおいては、何らかの図形を記載してビデオカセットテープ2に貼着し、そのビデオカセットテープの識別および内容把握を行うという、従来のIC20やアンテナ30aを有しないカセットラベルと全く同じように使用することができる。そして、このカセットラベル1aをビデオカセットテープ2に貼着して使用すれば、その内部に有するIC20に対して、種々のデータを記録することができる。すなわち、これまでメモとして書き留めていたような記録条件や、記録内容に係わる情報を、このカセットラベル1aに記録することができる。

【0028】また、そのような情報を記録する記憶部は、カセットラベル1aのIC20内に設けられている。したがって、既にビデオデータの記録されているビデオカセットテープ2に対しても、このカセットラベル1aを貼着すればそのような補助的な情報記憶手段を有するビデオカセットテープ3が直ちに構成でき、既存のビデオデータに対しても適応することができる。また、仮にメモリが不良になった場合などには、そのカセットラベル1aを張り替えるのみ修復でき、容易に取り扱うことができる。

【0029】また、このIC20に対するデータの転送は、アンテナ30aおよびリード/ライトモジュール91の間で通信を行うことにより、非接触方式により行われるため、接点の位置不良や、埃や消耗などによる接触不良などの問題が皆無となり、適切な付加情報の記録が可能になる。また、アンテナ30aがカセットラベル1aの中央付近にあるので、カセットラベル1aをどちらの向きでビデオカセットテープ2に貼着しようとも、アンテナ30aはかならずビデオカセットテープ2の凹部54の中央付近にくることになり、外部アンテナの位置

も特定できる。すなわち、カセットラベル1aはビデオカセットテープ2にどのような向きに貼着してもよい。

【0030】さらに、本発明のカセットラベル1aにおいてはIC20がカセットラベル1aの端部にある上に、そのIC20が埋設されている位置にはロゴなどが予め記載されており、使用者が文字を記入できないようになっているので、ペン先などにより直接押圧される可能性が少なく、そのような圧力の集中によるIC20の破壊や変形を防ぐことができる。

【0031】なお、本発明は、本実施の形態に限れるものではなく、種々の改変が可能である。たとえば、IC20のカセットラベル中における実装位置は、本実施の形態のようにカセットラベルの端部に限られるものではなく任意の位置でよく、たとえばカセットラベルの中央部でもよい。どの位置においても、カセットラベル1の記入面12のそのIC20が実装された位置にロゴなどを記載しておき、使用者が文字を記入できないようにしておけばよい。換言すれば、ロゴなどが記入されており使用者により文字などが記入されない位置であればIC20を任意の位置に設置してよい。

【0032】具体的な例を図4に示す。通常のビデオカセットテープにおいては、そのケースが上ハーフと下ハーフが合わされてケースが形成されている場合が多く、そのような場合にはカセットラベルを貼付するような背面部の中央部にはその段差が生じる場合がある。そのような段差があると、IC20を破損する可能性が高いので、IC20の実装位置としては、図4に示すようにカセットラベルの長手方向と垂直な方向において、いずれか一方の辺の近傍にオフセットさせた位置とするのが好適である。そのようなカセットラベル1bにおいては、図4に示すようにそのロゴ記入位置12bを形成すればよい。

【0033】また、そのロゴ記入位置12bに記入するロゴなどの種類は任意でよい。前述したようなフォーマットロゴやメーカーロゴなどに限られず、任意の図形・マークでよい。また、そのマークなどの形態も、通常に印刷されたマークでもよいし、スタンプなどにより押印された形態でもよい。また、フォログラムなどでもよい。

【0034】また、本実施の形態のカセットラベルは、文字・図形等が記載される表面とは反対側の下面に接着面17を有しており、これによりビデオカセットテープに貼着される構成であった。しかし、たとえばカセットケースの背面を袋状にし、そこにカセットラベルを挿入するような構成にしてもよい。そして、そのような場合には、カセットラベルの下面に接着面17は不要となる。本発明のカセットラベルはそのような構成でもよい。また、本実施の形態のカセットラベルは、従来のカセットラベルと同様に柔軟な紙状に形成されるものとした。しかし、より固い基板や補強材などを用いて、曲げることが実質的に不可能な程度の硬さをもたせ、いわゆ

るタグ状のラベルとしてもよい。

【0035】また、本実施の形態においては、アンテナ30aをカセットラベルの長手方向の中央付近に設けるようにした。しかし、アンテナ30aの位置はこれに限られるものではなく、カセットラベル上の任意の位置に設けてよい。特に、カセットラベルの貼られる向きが統一できるような場合には、カセットラベルがのように貼られてもアンテナの位置を同一にするような考慮は必要なく、どのような位置にアンテナ30aを設けてもよい。

【0036】また、カセットラベルに実装される回路も、任意の回路を実装してよい。本実施の形態においては、1個のICであるかのように説明をしたが、周辺回路を含む回路や、2つのICで構成される回路であってもよく、1個のICに限定されるものではない。そのような場合には、各ICが実装されている位置に、本実施の形態のようなロゴを記載しておけば、それらのICの保護を図れる。その他、アンテナの形状、ラベル基体を形成するベースシート、保護シートなどの各部材の材質、それらを接合する時に用いる接着剤、ビデオカセットテープの種類、そのサイズ、図3に示した外部アンテナの形態、外部リード/ライトモジュールの構成、ICへ記録する情報の種類などは、何ら本実施の形態の限定されるものではなく、任意に改変してよい。

【0037】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、ICを収容して非接触で通信を行いビデオデータの付加的な情報を管理することができ、特に文字などを記録す*

ることによりICが破損するのを防ぐことができるようなカセットラベルを提供することができる。また、背に装着されたIC収容のカセットラベルにより記録したビデオデータの付加的な情報を適切に管理することができ、特に背ラベルに文字などを記録する際にそのICが破損するのを防ぐことができるようなビデオカセットテープを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施の形態のカセットラベルの構成を示す図であり、(A)は上面図、(B)は側面図、(C)は(B)に示したXの部分の拡大図である。

【図2】図1に示したカセットラベルの装着された本発明に係わるビデオカセットテープの外観斜視図である。

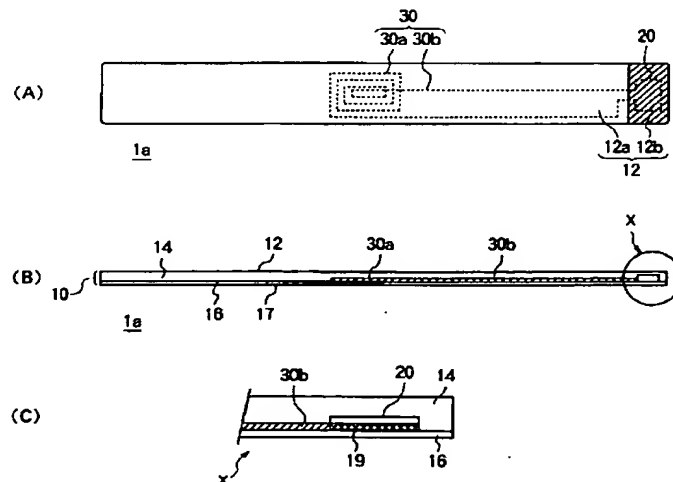
【図3】図2に示したカセットラベルの装着されたビデオカセットテープを、ビデオデータ記録再生装置に装着し、カセットラベル内のICに対してデータの転送が行われる状態を示す図である。

【図4】本発明のカセットラベルの変形例を示す図である。

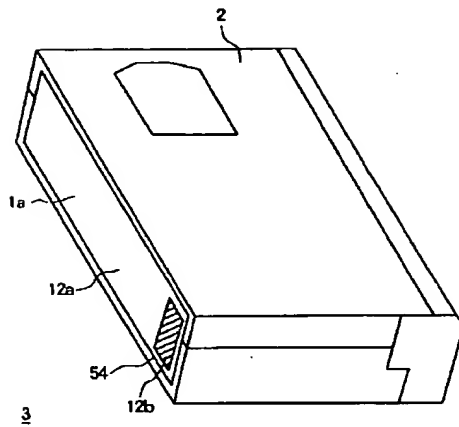
【符号の説明】

1…カセットラベル、2…ビデオカセットテープ、3…カセットラベルの装着されたビデオカセットテープ、10…ラベル基体、12…記入面、14…保護シート、16…ベースシート、17…接着面、19…クッション接着材、20…IC、30…アンテナバタン、54…凹部、55…蓋、90…アンテナ、91…リード/ライトモジュール

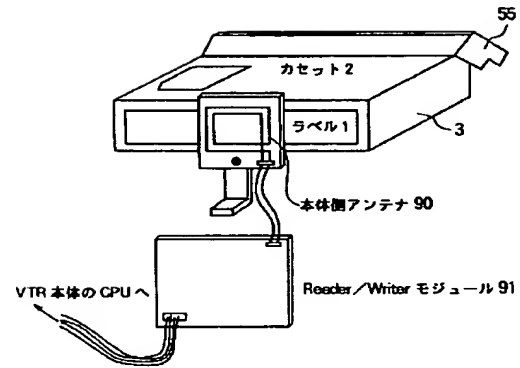
【図1】



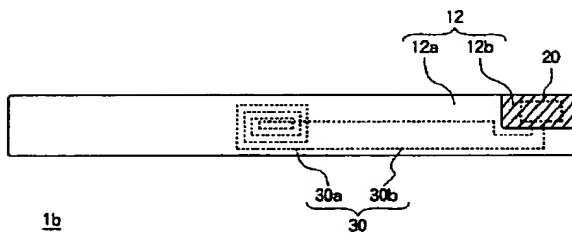
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 田中 誠輝
東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ
ー株式会社内